

農業分野に進出して雇用を確保する北海道の建設業者

北海道北見市の建設業者(株)舟山組(従業員 31 名・資本金 2,000 万円)は、1997 年に農業生産法人「有限会社香遊生活(こうゆうせいかつ)」を設立し、ハーブの栽培及び商品の開発・販売を行っている。ハーブ事業で本業の建設業の約 1 割程度を売上げ、社員の雇用確保にもつながっている。

北海道では、建設投資の道内総生産に占める比率は約 16%(2003 年度)に上る。加えて、建設投資の中でも公共投資への依存度が高い。しかし、厳しい財政事情を背景として、北海道の公共投資はピーク時の 1999 年度から約 4 割減となっており、景気は回復傾向にあるにもかかわらず、公共工事への依存度が高い中小・中堅建設業者は厳しい経営環境に直面している。

こうした状況下で、公共事業のみに頼っている自社の将来に不安を抱いたことが、新分野進出のきっかけであった。北見市が「ハッカ」の一大産地であったことから、こうしたイメージを活かすため、造園工事に保有していた苗畑の遊休部分を活用し、9 割を海外からの輸入に依存しているハーブの国内生産に乗り出した。社長の家族を海外に派遣して、ハーブの知識・ノウハウを習得した。また、無農薬栽培にこだわり、2003 年には JAS の有機認証を取得し、品質面で他社との差別化を図っている。

現在は 2 ヘクタールの畑にカモミールやカレンデュラなど約 40 種類のハーブを栽培しており、自社でハーブティーに加工するほか、他の企業に委託してキャンディー・入浴剤などを生産している。これらの商品はインターネットによる通信販売に加えて道内のホテルや百貨店、レストラン、都内の専門店などで販売されており、特に関東在住の女性客の購入が多い。

(有)香遊生活のハーブ畑

